

## 4 復旧計画

応急対策は一応終了しましたが、土石流発生のおそれが続いているため、災害予算の早期採択を待って本復旧に着手しました。優先すべきは、不安定土砂の土石流化による下流への被害を防止するため、堆砂機能を持った谷止工の設置でした。工事にあたっては、次期融雪期までに必要最低限の安全を確保するため早期完成が必要であること、施工期間も限られること等から現地発生材を利用した円形セルによる谷止工を採用しました。次いで、山腹崩壊地の復旧と渓流内の安定を図るため、山腹基礎工・緑化工及び谷止工等の溪間工を実施してきています。



災害発生平成18年4月20日



仮設大型土のう堰堤 完成 平成18年5月12日



No.1鋼製谷止工(円形セル) 完成 平成19年11月27日



No.2鋼製谷止工(円形セル) 完成 平成19年1月10日



山腹工 完成 平成19年11月30日



No.3・4鋼製谷止工(円形セル) 完成 平成20年11月26日